Vol. 2 No. 16
THE TAIRIKU
SUPPLEMENT TO THE TAIRIKU NIPPO
1932 March 25th

隔週大陸
（第十六號）
大陸日報附錄
編輯人 山崎寧

第二世に日本を見せる

時代の要求によつて起つ

日本人商業組合

過日開催された日本人商業組合の役員會席上に於て、第二世に父母の國を見せる爲めに、見學團を組織しやうと云ふ事になり、委員が舉げられて研究する事になつたと云ふ事である。

◇

勿論まだ内容も聞いて居ないのであるし、又目下研究中なのであるから、何んな形に於て組織されるのか、その邊を知る事が出來ないが、これは是非實現さす可く在留同胞も力を添へてい〻問題であらうと思ふ。

商業組合の仕事は、如何にしてより良い品物を、より安く賣るかと云ふ事の研究にあるであらう、然しそれが重大なる全部ではない

持つ第二世商人を作るか、もつと大きく云へば、如何にして日加貿易に貢獻出來る人物を第二世の間から作り出すか——これにありはしないかと思ふ。その爲めに盡すと云ふ事が、やがて商業組合に活きた生命を與へ、日本人商業組合の聲價を一般在留同胞に知らしめる事となりはしないかと思ふ。

◇

この爲めに、商業組合の計畫は當然商業組合によつてなされなくてはならぬ將來の 計 を樹てる上に於て、最も必要なものではないかと思ふ。

◇

殊に私は本社の見學團を引率して日本を歩いて來た經驗を通して出來得るならばすべての第二世に

云ふ切なる願を持つてゐる。それは或は狹量な人々に上つて、封建的思想の鼓吹であると、あざけられるかも知れない、然し現實はその必要に迫られて居るのである。

◇

先日もこんな話を聞いた。それはシアトルにあつた實際の話であるさうだ。

或る日本人の家に十七八になる娘があつた。彼女はシアトルで生れてシアトルで育つたが爲めに、日本を知らう筈はなかつた。然し彼女は日本を學んだ、それは父母が、貧乏で生活出來ない國であると云ふ話から、或は新聞が、教科書が傳へる誤つたものから、であつた。そしてその結果は、インデアンの樣に、或は國なきジプシーの樣に、そうして日本人種である事の誇りを持つ事が出來ず、やがてこれが己のプライドを棄てさせて、彼女自身、日本人の娘として生れた事に云ひ知れぬ歎息をしたのである。そこで兩親は彼女を日本へ送つて、日本を學ばせた。かくて歸つて來た彼女は、強く築かれて居る日本、美しい日本、文明な日本によつて、己と云ふ日本人種に強度の誇りを感じ、生れ變つ

活動を開始した、と云ふのであつた。然もこれが決して彼女の、米國への同化をさまたげはしなかつた。否より以上に、米國の市民たる日本人と云ふ意識を強くさせ、事實社會に於ける彼女は、その地位を向上せしむる事が出來た、と云ふのであつた。

◇

これはたゞ一例に過ぎないであらう。然し太平洋沿岸にはこんな例は澤山ころがつて居る。私の引率して行つた五名の學生も、たしかに驚愕を以て日本を見て來たに相違ない、そしてその結果は、カナダ人としての生活を決してさまたげては居ないのである。

◇

これ等の點から見て、商業組合の計畫は、たしかに太平洋沿岸何處の同業者に於ても企て及ばなかつた、大きな意義を持つものであらうと思ふ。

◇

買ふなら日本人商店から、——耳ならされた宣傳の言葉である。そして餘りに弱つた響きしか持たない言葉である。が然し何う云ふ形に於てか、若し商業組合の活々

在留同胞の耳には、新時代の新しい聲として、強く感謝と共に、日本人商業組合の名が印せられる事であらう、だからと云ふのでは勿論ない。ふさわしい計畫は、ふさわしい人々によつてなされなくてはならぬ、と云ふ不文律に見ても商業組合はこの計畫の實現に向つて、力を盡しては しいものである。不況の際今日明日といふのではない。又全部の負擔を商業組合が負ふべきである、と いふのでもない、奉仕の一端を示して、他は在留同胞全体に仰げはよいのである。

◇

が何れにしても、私は商業組合から、斯うした新しい力が生れて來た事を嬉しく思ふ。心から提灯

加奈陀同胞發展秘錄 （特價廿五仙）

殘部僅少、引續き右の特價でお頒ち致します。至急お申し込み下さい。

カメラ機能を考へる

愚 教 師

本社の滿洲事變活動寫眞を御覽になられた方々は是非御一讀を願ひたいと思ひます。これを御覽になつて上海事變のフイルムと比較される時、なる程ときつと御解りになるだらうと思ひます。——（記者）——

活動のカメラといふものは何でもありのまゝに寫し撮ることが出來て、實に便利なものである、と我人共に（のん氣だからネ）思つてゐたが、それが場合に依ると便利でも何でもなく、豫定行動の十分の一も動いて吳れない厄介な、だらしのないものである。否、だらしのないものになるのである——といふことが今度の北滿戰場に活躍した新聞通信社や軍部の活動寫眞班の苦い經驗でシミ〴〵と解つた。

△

それでのん氣な我々も今更のやうにカメラの機能及びフイルムなる物質に就てシミ〴〵考へてゐると、なる程役に立たないやうになるだけのちやんとした理屈が其處にはあるのである。

と云ふのは元來このカメラにしてもまたフイルムにしても假へそれがどんな進歩した精巧なものであつても、要するにそれ等は悉く溫熱帶上の住み良いところに生活する文明國人の使用を對照として作られたものばかりなのだ。

だから同じ戰爭でも過般の世界大戰に活動した活動寫眞班などは冬だつて夏だつて、どんな大規模な激戰であらうと、活動寫眞撮影の點から見ると、要するにそれは溫帶乃至おだやかな寒帶線場の戰爭なのだから、今度の北滿戰上におけるわが映畫班の如きヒドイ目には事實一遍だつて遭つてはゐないのである。

△

カリフオルニアの青空や原つぱなどで作られた戰爭映畫の美しさや壯快さに感心した目で北滿から次ぎ〴〵に送つて來られるニユースリールを見て、うわア、實戰映畫てものはつまらないもんですな。第一小汚くつてハツキリ寫つちや居ないぢやないか——なあんてくだらないことを云つちやいけない。

日光燦々と降りそゝぐカリフオルニアの溫かい青空だ。その中でリヒトホーフエン曲馬團にとびついてバタ〳〵と叩き落される英軍飛行團の悲壯をうつしてゐる撮影飛行機の上からカメラを向けてゐるカメラマンの頰つぺたには、凍傷なんか出來ちや居ない。

日光燦と降りそゝぐチロール・アルプスの雪の中だよイタリ・アルピニ步兵がスキーに乘つて突擊の眞似だアい、と來やがら。撮影終り。下の谷間からヨーデル節が聞えて來る。寒くも何ともない。カメラはとても良く作動しフイルムはとてもよく寫つて吳れます。苦しいの危險を冒したのと云つても、ヘン、のんきなもんです。第一ハツキリ寫らなけりやもつと良く寫るところへ移轉して何度でもやり直しをやるんですからナ。

△

ところが北滿戰場の從軍映畫班をもつて大いに寫してやるつもりで行つたんだが、零下二十度だの三十度だのといふ寒氣と烈風と砂ホコリの中を、長時間兵隊と一緒に歩き廻つたり、時には一緒になつてワアッと突擊したりしながら、さて素晴らしい光景を寫してやらうと思つて、カメラを向けると、どつこい、カメラの畜生は元々溫帶の文明國に生れて溫熱帶線下で働けよ、と云はれた品物なのだから、餘りの寒さと苦しさに驚いちまつて動かない。しなやかであるべきフイルムはいつも驚いて硬直し、ポキ〳〵と折れ、モーターの巻送りには過重が起り、油は凍りレンズは曇る。おまけに一番いけないのは、カメラマンの體があつちこつち既にこはつてゐるとだ南極の烈風をカメラに叩きつけてゐるのにも等しい、飛行機上からの俯瞰撮影なんて、そんなことは春にでもなつたら出來るだらう。

◇新刊紹介◇

◇語學校の佐藤傳氏は『米加に於ける第二世の教育』と題する四六判總振り假名附四百五十頁の研究を發表された。

早速之を通讀した『日本語學校の經營』に關する事より『第二世の素質その他』の項に至るまで、篇を分つこと四、章を分つこと廿三、所說微に入り細に渉り、眞に深切丁寧を極めて居る。而もその說く所、決して空論に馳せず、一々具體的經驗に基きたる公平の說で一讀何人も首肯せざるを得ぬ實際的說述である。

私の如く、三度も北米に渡り第二世の父母たる人が、その子[illegible]の教育に關して、眞劍に心配して居る實狀を見聞した者は、本書の世に出づることを、眞實に衷心より喜ぶ。在米の父母等は本書に由りて、種々の疑惑を解き、又正しき第二世の教育方針を知り得るであらう。私は喜びて此書を在米の父母に薦むると共に、苟も邦人の海外發展に關心を有する者は、その內地にあると、外國に在るとに拘らず、この書を一讀せんことを勸むる者である。

これは高島東洋大學教授の序文の一節である。

著者は『私にとつては人生記錄の一部である』と云つて居られるが、よくもこれだけに纏めたものであると感心せざるを得ない。苟くも兒童教育に頭を惱まして居る人々は『教育の資料』として一讀すべき好著である

◆募集

事實を基礎にした移民地でなくては見られぬ、そんな物語を御存じの方は、どし〳〵御投稿を願ひます。原稿は二千四百字內外のもの、原稿用紙でなくても差支ありません。毎月々末迄に『隔週大陸』係宛にお送り下さい。

開拓時代物語（

ヴァンクーバーの巻（二）

シーピー鐵道

晩香坡を述べる爲にはビー・シー州に於けるシー・ピー・アールの歷史に就て概略を述べなくてはならぬであらう。

一八七一年から一八七八年にかけて、加奈陀內測量の爲に費やした金は一千萬弗であつたが、このうち百卅萬弗は實にビー・シーの爲に使はれたのであつた。

エールに最初の機關車が到着したのは一八八一年五月十五日の事で、ポート・ムーデーが太平洋沿岸への最後の停車場として一八八六年六月廿八日、モントリオルを出發した客列車を迎へたのは同年翌月四日の正午であつた。モントリオルから百三十七時間かゝつたのである。

太平洋沿岸へ——と云ふので、會社では特に寢臺車にホノルル、ヨコハマと云ふ樣な名前をつけて走らせたのも、今から考へれば面白い事である。ポート・ムーデーからは毎日一回（月曜日を除く）午後一時に發車して居た。

土地の暴騰

ポート・ムーデーがシー・ピー鐵道の終點となつた以上、こゝの土地が暴騰したのは不思議ではないが丁度この頃スコットランド人で川崎造船所の技師を勤めてゐたといふヂョーヂ・テーラーが「おかめさん」と呼ぶ日本婦人を細君にして、現在のシー・ピー停車場前邊りで兄弟のジョン・テーラーと共に雜貨店を開いてゐた。此のテーラーは日本人に對しては大變親切にしてくれ、英語を敎へたり味噌汁を御馳走したりして居た。

日本で働いて貯め込んだ小金のあるのを幸ひにしたテーラー兄弟はポート・ムーデーがシー・ピー鐵道の終點となる以上、工業地としては當然對岸のローチ・ポイントが開かれるに相違ないと云ふので一躍成金を夢みながら財布をはたいて此處の土地を大部分買占めて了つたのであつた。所が運命の神と云ふものは時々大きないたづらをやりたがるもので、シー・ピー鐵道會社が更に鐵道の延長を晩香坡迄するといふ事が發表されるや土地はガタ落ちになつてテーラー兄弟は百萬長者どころか元の一

ーは日本へ細君をつれて歸り、ジョンはローチ・ポイントに止まつて獨身の呑氣な生活を續けてゐる

鐵道の延長

その地理的關係から見て、將來東洋貿易の中心となるのにはポート・ムーデーでは餘りにせま過ぎる事は素人にも分る。況やシー・ピー會社の重役達だ、最初の計畫は晩香坡の地形を一目見て不適當である事を知つて、時の州政府に交渉を開始したのであつた。[illegible]政府當局はコール・ハーバーを以て最後の點とする事を提議したこれは一八八四年の夏に會社の總支配人ヴァン・ホーンが視察して豫め考へてゐた事で直にこゝに決定して一八八五年二月廿三日政府の許可を得たのであつた。

當時現在のバラード街の西側の廣大な土地は一八六二年に英國から來たジョン・モートン、ウイリアム・ヘイルストン、サムエル・ブリッグハウスの三氏が持つて居り、會社はこの人達からその土地の三分ノ一を貰ふ事が出來た。尤も州政府はイングリッシ灣を鐵道の終點としやうと云ふ樣な考へを一八七八年頃已に持つて居り一八八〇年に此の案を通過してゐる。だが然し前政府はポート・ム

居たのであつた。

一八八七年の五月、エンヂニアーのロバート・ミールによつて運ばれて來た列車は、始めて晩香坡に入つたのであるが、一八八六年四月二十二日チエームス・リーミーによつて請負つた新西院への鐵道が完成したのは一八八七年十二月であつたから晩香坡と新西院とは約七ヶ月の間隔をおいて汽車を迎へたのであつた。當時の新西院の市長はデッキンソン氏であつた

晩香坡市生る

鐵道の終點となつた晩香坡は一八八六年四月六日市政を布く事になり同年五月市長及び市會議員の選擧となつたが、此の時の市長候補はエム・エー・マクリーンとアール・エチ・アレキサンダーであつた。選擧の結果は前者が二百四十二票であるに對し後者は二百二十五票で僅か十七票の差でマクリーン氏が當選し、第一回の晩香坡市長たるの名譽を擔つたわけであつた。此の年の六月に調査した人口は二千と云はれ、晝なほ薄暗い森林であつた。此の頃數名の日本人は六千二百七十五エーカーの晩香坡の土地を占めて材木の伐り出しをやつて居たヘステングス製材所に働いて居た。

く船乗りであつて、あッちこッちの港を歩き廻つてゐたのであるから、外國の風俗習慣などはよく知つて居り、已に書いた樣に、何しろ元氣な連中であつたから、ヘステングス製材所の重役からも非常に可愛がられ、勿論この頃は土人を除いては、日本人も白人も同じキャンプに寢食を共にしたものであつた。何の船で彼等がやつてきたか、と云ふ事はわからないが、横濱から最初に當市へ入つた船にフロラ・ビー・スタッフォード號といふのがあるから、これなんかにも或は多少の日本人が乘つてゐたものと思はれる、翌年の一八八七年に入港したアビシニア號には可なり多くの日本人が水夫とし又はボーイとして乘込んでゐた事だけは判然してゐる。

彼等は英語も少しは解つたし、後から來たのであるが、支那人などゝは全く區別されて、日本人でなくちやならない事になつてゐた

ミルの近くにクック・ハウスと云ふのがあつて、此處で就働者は食事を攝つて居たが、日白人は第一階級に置かれ第二階級には土人と支那人とが置かれ、しかもこの二つの階級は全く生活を別にさせられてゐた。（以下五面へ續く）

トシちやんの愛嬌

ブーン青年を捕虜にする

加奈陀ラ軍の一挿話

「トツキヨツにフロリダといふダンス・ホールがあるんだが知つてゐるかい」

日本で負傷し、いまなほ完全に癒りきらない頭のシビレの爲めに絶對安靜を命ぜられて、二十三の血盛りをホテルのベッドに横へなくてはならなくされてゐるアメリカはグーブタウンを故郷にしてゐるブーン君は、僕の顏を見るや否や斯う言ふのだ。

「ナーンだい、そりやまた、さう出し拔けに云はれたつて十餘年を加奈陀に暮してゐる僕には解らんよ」

私は答へた。すると彼は、十餘年が餘程強く胸に響いたとみゑて、

「十餘年だつて？　オヤ〳〵、そして君はもう日本へ歸らないッて言ふのか、馬鹿〳〵しい決心をしたものぢやないか」

と右の手でテーブルを引き寄せながら半身を起して、なみ〳〵と注がれて居るウイスキーのカップを取り上げて言つた。

「ぢや君は何うなんだい」

「僕？……だから云ふのさ、僕は日本で永久にハッピーな生活を續けたいよ」

「そりや君許りぢやないよ、僕だつてハッピーな生活を生れた國でしたいよ、然し……」

「それ見た事かい、君にだつてアノ素晴らしいフロリダの夜を……いけねエ〳〵。トシの顏が、アノ愛嬌のある人形の樣なダンサーの顏がアッハッハ……」

ブーン君は、ごくりとウヰスキーを飲んだ。

父母の下を離れて彼が寒國のカナダへ來たのは二年前であつた。好きなラグビーが、此の短い滯在の間に、彼をトロント隨一の選手に仕上げ、若年の彼れは選ばれて日本遠征軍に加はる事が出來たのであつた。問題は抑、こゝから發して居る。

驚異すべき國だ——ウッドワード氏は、先日第三街聖公會內ハリー倶樂部の會合に於て、斯う現在の日本を批評した。ブーン君もこれに同感であつた。そして此の驚嘆はやがてフロリダ・ダンスホールの一女性——ブーン君に云はせると實に快活な、可愛らしい、人形の樣な女性——トシちやんとの戀にまで影響して行つたものであるらしい。

「オ、！　トシ！　ナイス・ガール」

ブーン君は、一パイのウヰスキーに、ほんのりと顏を赤らめながら無茶に、シガレットの灰をたゝいたのである。

英語を少し話す事の出來たトシちやんは、ウッドワード氏ではないが『アイ・ラヴ・ユー』を、お互にきゝ、きかせた事であらう、いよ〳〵東京、否日本に別れをつげ樣として、横濱埠頭にたつた時勿論淚にぬれたトシちやんは、忙然自失した樣な格好をして、しよんぼり立つていたと云ふ。

『忘れろつたつて……馬鹿々々しい、どうして忘れられるかい、僕はもう一度日本へ行くよ』

ホテル・チョウヂアの十二階の彼の部屋は、ヤケに取り亂してあつた。半分シビレて居る、と云ふその頭をおさへながら、ブーン君はいつ迄もフロリダの夜を思ひ浮べて居る。

船が埠頭の綱を卷き上げると、選手達はなだれの樣にエンプレスの電信室へ飛び込んだ。そして奪ふ樣にとりあげた賴信紙の上に、彼等が書いた横文字は、みんな同じであつた。曰く

「ブロークン・ハート」

勿論この中にブーン君のものもあつた事は云ふ迄もない。日本からの來征軍が、緣の糸をのこして行つた樣に、カナダ遠征軍は同じ樣に、やさしい女性達になやみをのこして來た事であらう。

『妾をカナダへ呼んで下さい、溫かいアナタの……』

選手達へはヒッキリなしに、こんな手紙が送られて來る。

（エー生）

（四面より續き）

扨て話は變つて、明治二十四年ドッかりと日本人が殖ゑて來た。此等の人々の多くは、殆んど言葉はおろか、風俗習慣などに至つては、爪の垢程もわきまへては居なかつた。從つて彼等は食堂に入つても、あらゆる無作法を平氣でやり、ビーフ・ステーキを手摑みで食ふものもあれば、テーブルの上に列べてあるプデングを先づ最初に平げるなどはまだいゝとして、他人の分まで失敬して平氣でゐると云ふ樣な始末で、パイオニアーの人々も、これには可なり惱まされた。

「何うです、フォークをお用ひになつたら」

見るに見兼ねた永尾唯一氏は、新來のお客の手摑みで食べてゐるのに勸めた——と

『いや何う致しまして、私はこれで結構です』

と云ふ樣な、本人は謙遜しきつてゐるつもりで、一向平氣でゐるのであるから、何うにもならなかつた。それではかりではない、食事が終ると、これもテーブルの上にきちんと列んでゐる食後のケーキをポケットに押込んで來ると云ふ有樣に、白人の方でもたまりかねとう〳〵日本人はこの第一食堂から追ひ出されて仕舞つたのであつた。これで第二階級におとされて仕舞つたわけである。

然しソーミルの方では、日本人を失ふ事は不利である、と云ふので、追ひ出された日本人に、一日の給料一弗の外に、食費として別に三十五仙を與へてゐたのであつた。此頃現在のレイルウエー・ロードは土人のレザーヴであつた。

◆

茅野大毎記者の骸の前に
思ひこめた最後の心盡し

滿洲事變の哀話

錦州で支那人の暴虐なる行爲を受けて慘殺の憂き目を見た大毎社員茅野氏の遺骸を前にして、その父と妻とは何んな氣持を持つたであらうか、全日本國民への報道に生命をさゝげた氏は、いま滿洲開拓の人柱として、諸方面からその勇氣を賞されて居るが、以下は岩崎大毎社員からの通信である

×　×

私は僚友茅野榮君と同鄕竹島の友なるゆゑで二月十一日朝奉天に着いた茅野君嚴父襄二氏と未亡人春子さんとを遺骸の運ばれた錦州へ案內する役割を命ぜられた、奉天驛頭に迎へた茅野氏の父は目尻のホクロまで私が少年時代の記憶をそのまゝに思ひ起させるなつかしい面影であつた、遺族父子を乘せた北寧列車は午前八時半奉天驛發、お父さんは私をやはり『榮さん』と呼ばれる—茅野君と私とは偶然に同じ『榮』といふ名だ—榮さん貴郎が迎へてくれるとは思はなかつた、人間といふものは全く運命ぢや、わしはあの子を今日まで育てあげるのにどんなに苦勞をしたと思ひなさる、廿年間朝に星をいたゞき夕にまたその星を迎へるまで御存じのあの山の谷の水車小屋で一同が汗水たらしてやつと一日五十錢か、一圓の利益で、あの子を中學校から大學まで勉强させた、あいつは半分苦學をし、わしも人生の半分をあれのために捧げてヤツと大阪每日の記者に仕上げた、あいつも『お父さん安心して下さい』といふとつた、それがこんなとになりました、村の人達はわしが氣違ひになるやらうというてをります、しかしわしは氣違ひにはならぬ、勇敢に精進した倅に對してもこれから先もう廿年活動せにやならん、幸ひ孫を一人殘して置いてくれたから、あいつをまた大每の記者に仕立て上げるまではわしや死なれんです、小さいダイヤモンド一粒を抱きしめて肌で溫めてゐたのが突然消えてなくなつ

粒を大きな光る寶石にまで仕上げにやならぬ……

私は深く頭を垂れたまゝ答へる言葉がなかつた

未亡人は地圖を膝にぢつと窓外にうつり行く雪の曠野を見つめてゐた。

大凌河を越え双陽甸驛を一キロ半ばかり行つた所で、線路の右側に累々たる岩山が集まり左の方に錦州の古塔が見えるあたりで私は『こゝいらで茅野君は敵に捕はれたのでせう、この石山の蔭から敵が卅人ばかり現はれて來たさうです』といつた、未亡人もお父さんも**俄に化石した人**のやうな表情をしていつまでもいつまでも車窓から眼を離さない、『あの石もこの木も茅野がくゝられてゐたのを見てゐたのでしやうに』と未亡人は泣くやうにいつた

午後五時列車は錦州驛についた、一行はそのまゝ支那馬車に分乘錦州城內千年の古塔が落日に浮んでゐるその眞下の大廣濟寺孔子廟に馳せつけた。

そこには茅野氏ほか三人の遺骸が安置されてあつた、宝氏の好意で高い壇の上に白布で包んだ四つの柩がならべられ、香爐からは香

如來の御像がかゝつてゐた、石原松尾兩大每社員が**茅野君の棺の蓋**を取りのけた、誰かゞろうそくに火をつけた、つめたい暗闇がほのかに明るくなつた、親と子、妻と夫、そのやる瀨ない悲しいため息の幕が引き落された、お父さんと未亡人とが靜かに棺の緣から中をのぞき込んだ、一同は息を呑んで二人の顏を見詰めた、さいなまれ更に裸体にして嚴寒の凍土に棄てられてあつた茅野氏の上半身はたゞ一握りの黑髮を見せたゞけで白布にまきこまれてあつた、お父さんはいきなり手を突き込んで被せてあつた白布をもどかしさうに拂ひのけて、ぢつと見下してゐたが突然『榮！』と大きな凜とした聲で呼びかけた。

榮、よくやつてくれた、わしはうれしいぞう、ようやつてくれたのう、お前としては殘念ぢやつたらう、わしもお前の敵をくひ殺してやつてもあき足らぬとは思ふとるが、しかし榮、よく考へて見よ、これみなお國のためぢやぞ、大每の記者として社會のために倒れたのぢやぞ、男として、新聞記者として、こんな名譽なことは滅多にないぞ、

ので、遥々こんな異鄕までやつて來た、よく死んでくれた、あつぱれだ、安心して成佛せよ』——その聲は大地の底へまで浸み通るやうに思はれた。

一同は思はずすゝり上げた、たゞお父さんだけは一滴の涙も見せなかつた、未亡人は持つて來た着物を遺骸の上に着せかけた、源氏ぐるま模樣の羽二重の長じゆばんを着せ、大島の二枚重ねと對の羽織、それから白足袋に藁草履までをのゝきふるふやさしい手で着せかけながら『あなたさぞ……』といつたきり、またハラ〳〵と止めでもない熱涙がさん〳〵と冷き遺骸に降りそゝぐのであつた『泣くな、佛が困る』とやさしくたしなめたお父さんの眼に漸く涙らしいものがさつと光つた、それから**從軍僧侶の讀經**があつた、上弦の月は冴えて漆のやうに黑い空から、刺すやうな寒風がこの荒れはてた堂內に吹き込んで、ろうそくの灯が消えさうになる中を、悲しき白骨の御文章が朗々と讀み上げられる間、人々は順々に『釋大榮信士』とある法名の前に香をたいて、午後七時本社通信部に引あげ、一同は土瓶にわかした酒をわれ茶碗に汲みかはしながら老父と未亡人の思ひ出話を繰かへして夜をふかしたのだつた

參政權獲得問題と（五）

その歷史的研究

今村千治

換言すれば彼は英國臣民であつた。英國臣民たるが故に、立法部は歸化法が、彼に許したる權能を彼から剝奪する事は出來ぬ、更に一英國臣民と他の英國臣民との間に、種別を設ける事は不可能な事である。

彼等は或公職にある英國臣民は投票者名簿にその名を加ふる事は出來ない、と云ふ事は云ひ得る、又かくなして居る、然し此の如き公吏は、投票者に依つて、政治上の權利を附與されて居ない者であると云ふ點に、留意されなくてはならぬ。

一八九九年の、ユニオン炭坑會社對ブライデンの事件（エー・シー五八七）に於て樞密院は加奈陀の國に居住する支那人況んや日本人の階級の權利、特權及び無資格に直接關係を有する總ての事項につきドミニオン議會はセクション第九十一、サブセクション第二十五に依り專斷的に權能を附與されて居ると云つて居る。

樞密院の見解によれば、尙は炭鑛取締法の眞意は、外人又は歸化臣民に關係する法定的の禁止に基いて成立したものである、とあつてその故を以て加奈陀議會の權能內に拘制されるものとした、歸化の主題たるや、歸化に依つて以て發生すべき權利、換言すれば歸化を了して後、加奈陀に居住するものに屬する權利、特權たるべきものを修正する能力をも含んで居る

外人と雖も歸化を爲すと共に國王に對する加奈陀臣民となるものであつて、外人に關しては、彼等は政治上の特權を主張すべき何等の法律もないのであるから、州議會は彼等に對して、參政權を拒絕する事が出來る、然し一度外人が歸化した後はセクション第十三は之等歸化外人に對して總ての政治上その他の權利と權能と特權とを與へ、且つ同時に生來の英國臣民が加奈陀國內に遵奉すべき義務の一切を負擔せしむるのである。

政治的權利、權能及び特權——そは、甚だ普遍的の辭句で、登記その他に關して法規の要求する所を果すべきことは勿論であるが要するに、參政權を行使するの權及び議會に於て選擧者を代表するの權利を意味するものである。

ドミニオンは、歸化外人に、政治的權利を許してある、即ち州議會はドミニオンの法規を無效として取扱ふ事は出來ない、問題は解決困難に屬してゐる、樞密院の見解では、州の特有の統制の下にある諸種の事項に關しては、州は優越權を有して居るが、余の指摘した樣に、外人に許可された政治上の權利の問題は、ドミニオン議會の權能の範圍內にあり、ドミニオンは歸化人に政治的權利を認めて居るから、之等の人々が之等の權利を行使する事は出來ぬと、州議會が聲明する事は、州議會の越權であると思考する。以上の理由によつて余は、此の上告を却下するを至當と信ずる。

判事　MWテルウイツト・ドレーキ

以上の外に裁判所書記から發表された文書がある。重復するが後日の爲めにこゝに全文を飜譯しておくとにする

晚香坡に於て開廷された晚香坡カウンテー・コートよりの上告に關しビーシー州のスープリムコートに於て

判事　ウオルケム
ドレーキ
マーテン

州選擧法及び改正法規に就て並に晚香坡市選擧區投票係トーマス・カニンハムの決定に對するトミー本間の上告に就て

一九〇一年三月九日（土）

一九〇一年三月八日に審問ありたる晚香坡市選擧區投票係トーマス・カニンハムの本告訴事件は一九〇〇年十一月三十日附を以て晚香坡に於て開廷された晚香坡カウンテー・コートに於けるチーフ・チヤスチスの判決に對しての上告で即ち當時の判決によれば、晚香坡市選擧區投票係の決定に對してのトミー本間の上告は受理され該時晚香坡市選擧區投票者名簿にトミー本間の姓名を記載すべき旨命令判決を受けたのである、而して原告辯護士チヤールス・ウイルソン及び被告辯護士アール・ダブリユー・ハリス兩人の辯論を聽取し判決は本日まで保留されて居た。

本廷は一九〇〇年十一月三十日附を以て、晚香坡に於て開廷された晚香坡カウンテー・コートにてチーフ・ヂヤスチスの下した判決に對しての本上告を却下すべき事を宣告する。而して本廷は更に、被告トミー本間に對して本件に關しての納稅の後即時訴訟費用を支拂ふべき事を命令し且つ判決する。

裁判所書記
チエー・シー・ドツクリル

扨て以上の樣にして、日本人側は二回共に勝利を宣告されたのであるが、然し州としてはたゞこれだけで泣き寢入りをする事は出來なかつた。そこで同月三十日、必要なる五百ポンドの積立金を送つて、事件は英國樞密院へ上告されたのである。

だが然し樞密院に於ては以下數回に亘つて揭載するロー・リポートに依つて明かである樣に歸化は領の專屬事項ではあるが歸化の結果を規定する事は州の自由である

と云ふ事になつて、日本人側の敗訴となり、今日にまで及んでゐるのである。將來何うなるか、これは充分リポートの後更に揭載するタツパー氏の意見書によつて研究する事が便利であらうと思ふ。

筋肉勞働者たらしむべく

東洋人第二世を教育せよ

アダムス教授の忠言を聽け

强い人種的偏見

以下紹介する第二世の職業問題についての意見は、一九二四年二月廿六日布哇大學教授ロマンゾー・アダムス氏によつて語られた所のものである。一昔にもならうと云ふ古物ではあるが、然し東洋人の最も多いハワイに於て、斯うした問題が起つて居ると云ふ事は、將來カナダの同胞二世が知つておいてよい事であると思ふ。第二世問題の矢釜しい折多少でも讀者の參考とならばと思ひ掲載しておく。——記者——

× ×

若い東洋人系市民の就職口の激減した原因としては從來の學校教育を擧げることが出來る、當地における在來の教育理想が筋肉勞働者を養成することに留意せず専ら「ホワイト・カラー」を着ける人を養成するにあつたからであつた今日では非筋肉勞働者の位置は極めて僅かしか殘されてゐない。

◆

そこで此就職問題を解決するには三つの方法がある、第一には若き青年に手仕事を與へるため一大工藝ハイスクールを設置することである、第二には米大陸に於いて就職口を得せしめること、第三は成限定した東洋人系市民を東洋殊に支那に送つて其處で就職の機會を得せしむる事である。

◆

米國の經費で善良なる米國市民たるべく養成した支那人系市民を支那に送るといふことが果して當を得てをるものであるかどうかに就いて諸君の中には疑ひを抱くものもあるか知らんが之に就いては心配無用である。米國民及び米國政府は若き市民等が其の滿足し得る位置を求むるため世界何れの國に向はうと少しも意に介しない、寧ろ之を奬勵するものである。

◆

予は數十名の若い支那人系市民が支那に於て職を得ることは米支兩國のため却つて慶賀すべきであらうと思ふ、支那の產業は諸君の來るを待つてをる、諸君が行つて米國の理想を支那人間に說明するは米國として極めて望ましいことである。予は諸君に向つて布哇の現狀を敢て赤裸々に茲に述べて諸君の猛省を促したい。といふのは外でもない人種的偏見である。

◆

人はハワイに人種的偏見なしといふ、見方に依つては或はさうかも知れない。併し就職口を搜す段になると其處に明かに此偏見が認められる。其處へ行くと白人はハワイに於ては生れながらにして優越權を有つてをる。不合理であるが事實をば如何ともすることが出來ぬ。諸君にして成功しようとすれば彼等に比して一層の努力を要する。併し若しも諸君が筋肉勞働をも厭はぬといふ決心で努めるならば諸君の前には多くの機會が捧げられてある。

◆

一體此人種的偏見なるものは知識の缺乏に基くもので言語の通じない所から來ることが多い。故に諸君の如く英語を話すものが多くなるに連れて偏見は其度を減じて來る。要するに諸君はハワイ出生青年の前進すべき道を固めて行く開拓者である、諸君の成敗は後進の成敗を意味するので其の責任は重く且大である。

夫婦喧嘩と自動車

移動寢室に早がはり

X Y Z

文明と云ふものは、屢 皮肉な役割をつとめます。荷車が一番文明の機械である、と思つて居た所へギャソリンが噴出して、自動車なんて厄介なものが發明された。そこで何萬哩も樂々と旅行が出來る樣になつた、便利な機械であるが、たゞそれだけで濟めば、實はこんな材料によらず、私が甚だこの餘白をみたすのに、苦勞しなくてはならなくなるわけです、そこがまア神樣のお助けと云ふもの、これはステヴストンがその舞臺になるわけです。

ステヴストンに父兄會といふのがあつて、此の會の會長をして居る方に、橋本倉之助君がありますす手八丁口八丁で、なか／＼活動家なんですが、つい先日の事です、所用を帶びてス村へ行くと驛前に立派な自動車を持つて來て待つていてくれた。座席の上にどつさり荷物を積み込んで『まアこゝへ掛けてくれ』氣輕な橋本君は說明してくれた。

『ナニこの自動車もねエ、荷物を積んだり、時には君寢室になるんだから面白いよ、便利なものでねついその……』

で僕の方でもナンとか云はなくてはならなくなつたので、同情的な口調で云つたものです。

『さうだらうね、あなたも却々ぢつとして居るタイムも持たない忙しい仕事を持つて居るからね、然し便利でいゝよ』

すると、ナンとまア皮肉な文明機械ではありませんか橋本君は白狀するのです

『ナニ、そんなに君自分の家へ歸られない程忙しい事もないがね、ワイフと喧嘩するとね、ソノついムッとなつてね、その晩はこの中で寢るんさ、これだつて自分の家だと思へば、ナニそんなに寢苦るしい事もないよ』

まつたく／＼。

苦闘十二年の回顧【十三】

出征より參政權獲得まで

ルミユー氏が斯う强く叫んだ時ザー・エー・バーナム議員は『夫れは人種の相違から』とからかふ樣に挿はさむと、ルミユー氏は彼の方を向いて續けた

『實は確にヒンヅーに對する待遇より來てゐるものである。彼等が英國臣民たることはビクボロー洲出の予の親友（バーナム氏を指す）が英國臣民たると變りはない。彼等は當國の一部カナダの如きに於て、特にビーシー州に於て劣等人種として待遇されてゐる、紛擾の全部の根源は之にある、軍隊に於て、サツクスフォードに於て、ケンブリツヂに於いて、樞密院、法廷、英國議會に於いてヒンヅーと會したる者は、僕等の一部が等しく英國臣民なる印度人に就て語る時の奇怪なる語調に驚くのである、予の知る所ではビーシー州に於ては下賤なる仕事を爲すのは支那人のみである、然も同州に於いて東洋人排斥を初めて絶叫した者は初めて支那人等東洋人を利用した者である、ビーシ州に東洋人の勞働を有する事を日々神に感謝してゐるのである

此の樣に問題になつて來たので古兵協會に於いてもオタワへ打電して良き解決に力を盡すこととなつたのであつた。

扨て何うしててんな問題が、突然にも起つたのであるかと言ふにそれは、僕が選擧人名簿作製の發表をなした際、當國出生及び歸化支那人約二百名が登錄を了した事から憂いたビー・シー州の某政黨がオタワに打電した結果であると云はれてゐる。

日會は同年九月三十日ホテル・バンクーバーに開催された州保守黨大會に幹事を送つて、歸還兵の參政權保留贊成の決議を得ることに力を盡したが提案期遅れ何等受理さるゝに至らなかつた。

參政問題の反響

九月廿九日

僕バイエレクション法修正案は本日第三讀會を通過した

日會は辯護士を通じてオタワに打電した。

大戰古兵協會南晩香坡支部はオタワ議會に東洋人參政反對の決議を送つた。然し特に歸還兵については明言しなかつた。

十月二日

大戰古兵協會は『外國出生者にして大戰に出征せる者に完全なる市民權をカナダは附與すべきである』と云ふ決議を通過した。

十月十四日

エス・エフ・トルミー氏は農相に就任の結果そのバイエレクションがビクトリアに於て行はれるにつき本日同氏の選擧運動者に宛て支那人の投票獲得の企圖は放棄すべき樣電報して來た。支那人の投票が無効となつた爲である。

◆

大正八年十二月廿五日の事であつた。州首相ヂョン・オリバーは今議會に於いて新選擧法案を提出する事を發表した。そこで日會に於てはその定期役員會に於いて、歐洲大戰に加奈陀軍に參加後歸還した百四十二名の義勇兵に對しては、どうしても州及領選擧權を獲得しなくてはならぬと云ふので、辯護士ホワイトサイド氏に依賴政府に向つて請願することにしたのであつた。

此の樣にして邦人側が運動を開

大正九年一月廿二日マッケンチー大尉の說明によつて滿場一致を以て、同胞の運動を積極的に援助する事を決議し、直に州及び領政府へこれを打電したのであつた。

オリバー首相よりは二月廿二日附を以て提出者の出張を勸告して來たので廿三日

ホワイトサイド日會顧問辯護士
古兵協會長、マッケンチー大尉
戰友協會長、牛島新平
日會常務委員、佐伯只一

氏等のビクトリア出張となつたのであつた。

議會の第一聲

代表委員四氏は廿四日閣員と會見して、百九十六名の邦人が出征して戰死五十四名、殘餘の百四十二名の中、僅かに十二名を除いて他は戰傷した事實を語り、百四十二名の爲めに、選擧權を與へてはしい旨を述べたが、鑛務大臣スローンは

之を許した場合、同じく出征兵たる當州ヒンヅーの地位に如何の影響あるやに考へ及ばれましたか』

との問であつた。更にキング工相オリバー首相等と懇談を重ねた結果、廿七日政府案として、議會へ提出された改正案は

に居住したる者にして大戰に際し加奈陀陸海軍又は航空隊の何れかに入隊して出征し戰役服務と共に實戰に參加したる有資格者にして當州に歸還したる者は二十歲未滿の者、當州に於て出生英國臣民の特權を有せざりし者又は日本人たるの何れに拘らず登錄投票權利を附與さるべしと云ふのであつて、明かに日本人歸還兵への厚意が示されたものであつた。

三月六日當市オブライエン・ホールに於て開かれた保守黨員の會合に出席した南オカナガン選出代議士ダブリユー・ジエー・チョーンスは、日本人歸還兵に選擧權を附與するの政府案を攻擊し

『予は此點について最後迄反對し戰ふ積りである、州內地の民家は東洋人侵入の危險を覺知した州中全部に亘り、農場は日本人支那人によつて購入されて居る彼等の方策は徐々に白人の定住者を窮迫するにある。日本人歸還兵に參政權を許可する事は軈て日本人全体が參政權獲得を政府に要求するの運動を更新せしむることを意味するものではないか』

と演說し、反對の第一聲を擧げて